

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-1079

(P2010-1079A)

(43) 公開日 平成22年1月7日(2010.1.7)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 6 5 D 5/54 (2006.01)	B 6 5 D 5/54 3 O 1 A	3 E 0 6 0
	B 6 5 D 5/54 3 1 1 C	
	B 6 5 D 5/54 3 O 1 M	

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2009-231390 (P2009-231390)	(71) 出願人	000002897
(22) 出願日	平成21年10月5日 (2009.10.5)		大日本印刷株式会社
(62) 分割の表示	特願2003-417748 (P2003-417748)		東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
	の分割	(74) 代理人	100111659
原出願日	平成15年12月16日 (2003.12.16)		弁理士 金山 聡
		(72) 発明者	林 正保
			東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
			大日本印刷株式会社内
		(72) 発明者	杉山 有二
			東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
			大日本印刷株式会社内
		Fターム(参考)	3E060 AA03 AB03 AB13 BC04 CE05
			CE07 CE14 CE15 CE18 CE19
			CE22 CF05 DA14

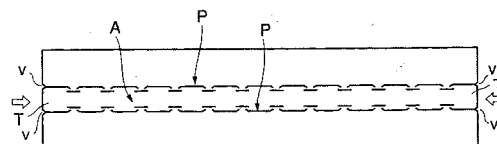
(54) 【発明の名称】 ジッパー付きカートン

(57) 【要約】

【課題】両端のいずれから開始しても容易に開封することができる形状のカートン用ジッパーを提供することにある。

【解決手段】本発明は、切れ目線が、開封方向に沿って引き裂かれる二列のジッパーライン上に不連続に設けられた切れ目線と切れ目線の間隙幅が小さい主切れ目線と、そのジッパーラインの内側に所定の幅で前記ジッパーラインに平行な線上に不連続に設けられた補助切れ目線とからなり、主切れ目線が、直線部と該直線部の両端から鈍角で補助切れ目線に向かって斜めに伸びた斜線部とからなる形状であり、補助切れ目線が、隣接する主切れ目線の斜線部の先端間を前記ジッパーラインの内側方向に所定の幅で平行に移動した位置で、長さを先端間の距離と同等以上とし、補助切れ目線の長さを主切れ目線の長さに比べて小さくした形状のカートン用ジッパーで利用したジッパー付きカートンである。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

天パネル、四つの側パネル、底パネルにより構成されるカートンの前記天パネルを横断して切れ目線を二列に配列して帯状にして設けたジッパー付きカートンであって、

前記切れ目線が、開封方向に沿って引き裂かれる二列のジッパーライン上に不連続に設けられた切れ目線と切れ目線の間隙幅が小さい主切れ目線と、前記ジッパーラインの内側に所定の幅で前記ジッパーラインに平行な線上に不連続に設けられた補助切れ目線とからなり、前記主切れ目線が、直線部と該直線部の両端から鈍角で前記補助切れ目線に向かって斜めに伸びた斜線部とからなる形状であり、前記補助切れ目線が、隣接する前記主切れ目線の前記斜線部の先端間を前記ジッパーラインの内側方向に所定の幅で平行に移動した位置で、長さを前記先端間の距離と同等以上とし、前記補助切れ目線の長さを前記主切れ目線の長さに比べて小さくした形状であることを特徴とするジッパー付きカートン。

10

【請求項 2】

天パネル、側パネル、前パネル、側パネル、後パネル、底パネルにより構成されるカートンの前記天パネルの側辺近傍に切れ目線を二列に配列して幅広い帯状にして設け、さらに、前記前パネルに延長して接続して摘み部を設けたジッパー付きカートンであって、

前記切れ目線が、開封方向に沿って引き裂かれる二列のジッパーライン上に不連続に設けられた切れ目線と切れ目線の間隙幅が小さい主切れ目線と、前記ジッパーラインの内側に所定の幅で前記ジッパーラインに平行な線上に不連続に設けられた補助切れ目線とからなり、前記主切れ目線が、直線部と該直線部の両端から鈍角で前記補助切れ目線に向かって斜めに伸びた斜線部とからなる形状であり、前記補助切れ目線が、隣接する前記主切れ目線の前記斜線部の先端間を前記ジッパーラインの内側方向に所定の幅で平行に移動した位置で、長さを前記先端間の距離と同等以上とし、前記補助切れ目線の長さを前記主切れ目線の長さに比べて小さくした形状であることを特徴とするジッパー付きカートン。

20

【請求項 3】

天パネル、側パネル、前パネル、側パネル、後パネル、底パネルにより構成されるカートンの前記前パネルを横断して切れ目線を二列に配列して帯状にして設け、さらに、前記両側パネルに斜め方向に一系列の切れ目線をそれぞれ設けたジッパー付きカートンであって、

前記切れ目線が、開封方向に沿って引き裂かれる二列のジッパーライン上に不連続に設けられた切れ目線と切れ目線の間隙幅が小さい主切れ目線と、前記ジッパーラインの内側に所定の幅で前記ジッパーラインに平行な線上に不連続に設けられた補助切れ目線とからなり、前記主切れ目線が、直線部と該直線部の両端から鈍角で前記補助切れ目線に向かって斜めに伸びた斜線部とからなる形状であり、前記補助切れ目線が、隣接する前記主切れ目線の前記斜線部の先端間を前記ジッパーラインの内側方向に所定の幅で平行に移動した位置で、長さを前記先端間の距離と同等以上とし、前記補助切れ目線の長さを前記主切れ目線の長さに比べて小さくした形状であることを特徴とするジッパー付きカートン。

30

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、カートンなどの開封に使用するジッパーに関するものであり、詳しくは、開封操作において、両端のいずれから開封が可能なカートン用ジッパーに関するものである。

40

【背景技術】

【0002】

従来から各種のカートンの開封にあたり、カートンの必要な部分を引き裂くための切れ目線として、単にミシン目状に不連続な切れ目線を入れる形状、直線の先端を曲げた L 字形状の切れ目線を不連続に設けた形状、波形状の切れ目線をオーバーラップするように不連続に設けた形状等がある。さらに、これらの切れ目線を二列に配列して帯状にして開封する構造を通常ジッパーと称し、図 8 に示すような形状が実施あるいは提案されている。

50

しかし、これらのカートン用ジッパーは、一方向から開封することができる形状であり、反対方向からは開封しにくい形状となっている。従って、表示が不明確な場合、使用者が視覚障害者、老人、子供などにとっては、反対側から開封してしまい、開封に困難をきたすことがある。従ってこの欠点を解消するために、両方向から開封することができるカートン用ジッパーも提案されている（例えば、特許文献 1 参照。）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開平 10 - 101064 号公報

【発明の概要】

10

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、上記の両方向から開封することができるカートン用ジッパーは、ジッパーをカートンから引き裂いた後、残された引き裂き部分がギザギザ状態となり、外観上、綺麗なものではなく、指等を傷つけたり、内容物を取り出す時に傷つけたりするという危険性がある等の問題がある。

【0005】

上記の問題を解決するための本発明は、両端のいずれから開始しても容易に開封することができ、開封後の残された引き裂き部分が綺麗な状態で開封することができる形状のカートン用ジッパーを提供することを目的とするものである。

20

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記の課題を解決するために、請求項 1 の発明は、天パネル、四つの側パネル、底パネルにより構成されるカートンの前記天パネルを横断して切れ目線を二列に配列して帯状にして設けたジッパー付きカートンであって、前記切れ目線が、開封方向に沿って引き裂かれる二列のジッパーライン上に不連続に設けられた切れ目線と切れ目線の間隙幅が小さい主切れ目線と、前記ジッパーラインの内側に所定の幅で前記ジッパーラインに平行な線上に不連続に設けられた補助切れ目線とからなり、前記主切れ目線が、直線部と該直線部の両端から鈍角で前記補助切れ目線に向かって斜めに伸びた斜線部とからなる形状であり、前記補助切れ目線が、隣接する前記主切れ目線の前記斜線部の先端間を前記ジッパーラインの内側方向に所定の幅で平行に移動した位置で、長さを前記先端間の距離と同等以上とし、前記補助切れ目線の長さを前記主切れ目線の長さ比べて小さくした形状であることを特徴とするジッパー付きカートンである。

30

【0007】

請求項 2 の発明は、天パネル、側パネル、前パネル、側パネル、後パネル、底パネルにより構成されるカートンの前記天パネルの側辺近傍に切れ目線を二列に配列して幅広い帯状にして設け、さらに、前記前パネルに延長して接続して摘み部を設けたジッパー付きカートンであって、前記切れ目線が、開封方向に沿って引き裂かれる二列のジッパーライン上に不連続に設けられた切れ目線と切れ目線の間隙幅が小さい主切れ目線と、前記ジッパーラインの内側に所定の幅で前記ジッパーラインに平行な線上に不連続に設けられた補助切れ目線とからなり、前記主切れ目線が、直線部と該直線部の両端から鈍角で前記補助切れ目線に向かって斜めに伸びた斜線部とからなる形状であり、前記補助切れ目線が、隣接する前記主切れ目線の前記斜線部の先端間を前記ジッパーラインの内側方向に所定の幅で平行に移動した位置で、長さを前記先端間の距離と同等以上とし、前記補助切れ目線の長さを前記主切れ目線の長さ比べて小さくした形状であることを特徴とするジッパー付きカートンである。

40

【0008】

請求項 3 の発明は、天パネル、側パネル、前パネル、側パネル、後パネル、底パネルにより構成されるカートンの前記前パネルを横断して切れ目線を二列に配列して帯状にして設け、さらに、前記両側パネルに斜め方向に一系列の切れ目線をそれぞれ設けたジッパー付

50

きカートンであって、前記切れ目線が、開封方向に沿って引き裂かれる二列のジッパーライン上に不連続に設けられた切れ目線と切れ目線の間隙幅が小さい主切れ目線と、前記ジッパーラインの内側に所定の幅で前記ジッパーラインに平行な線上に不連続に設けられた補助切れ目線とからなり、前記主切れ目線が、直線部と該直線部の両端から鈍角で前記補助切れ目線に向かって斜めに伸びた斜線部とからなる形状であり、前記補助切れ目線が、隣接する前記主切れ目線の前記斜線部の先端間を前記ジッパーラインの内側方向に所定の幅で平行に移動した位置で、長さを前記先端間の距離と同等以上とし、前記補助切れ目線の長さを前記主切れ目線の長さに比べて小さくした形状であることを特徴とするジッパー付きカートンである。

【 0 0 0 9 】

10

また、前記切れ目線の前記直線部にツナギを設けることもできる形状のカートン用ジッパーを利用したジッパー付きカートンである。

【発明の効果】

【 0 0 1 0 】

本発明のカートン用ジッパーは、各種のジッパー付きカートンにおいて、両方向から開始しても開封ができ、表示が不明確な場合、使用者が視覚障害者、老人、子供などにとっても開封が容易で、最後までジッパーラインどおりに安定して引き裂くことができ、開封した後、残された引き裂いた部分が綺麗であり、指等を傷つけたり、内容物を取り出す時に傷つけたりすることの危険性がなくスムーズに開封することができるという効果を有するものである。

20

【 0 0 1 1 】

本発明によれば、両端のいずれからでも開始することができることにより、表示が不明確な場合、使用者が視覚障害者、老人、子供などにとっても容易に開封することができ、開封後の残された引き裂き部分が綺麗な状態で、指等を傷つけたり、内容物を取り出す時に傷つけたりすることのない形状のカートン用ジッパーを得ることができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 2 】

【図 1】本発明のカートン用ジッパーを示す平面図である。

【図 2】本発明のカートン用ジッパーの部分拡大平面図である。

【図 3】本発明のカートン用ジッパーの補助切れ目線の形状例を示す部分拡大平面図である。

30

【図 4】本発明のカートン用ジッパーの効果を説明する図である。

【図 5】本発明のカートン用ジッパーを使用したジッパー付きカートンの一実施例を示す斜視図である。

【図 6】本発明のカートン用ジッパーを使用したジッパー付きカートンの別の実施例を示す斜視図である。

【図 7】本発明のカートン用ジッパーを使用したジッパー付きカートンのさらに別の実施例を示す斜視図である。

【図 8】従来のカートン用ジッパーの例を示す平面図である。

【発明を実施するための形態】

40

【 0 0 1 3 】

本発明のカートン用ジッパーの実施の形態について、以下に、図面を参照して詳細に説明する。図 1 は本発明のカートン用ジッパーを示す平面図であり、図 2 は本発明のカートン用ジッパーの部分拡大平面図であり、図 3 は本発明のカートン用ジッパーの補助切れ目線の形状例を示す部分拡大平面図であり、図 4 は本発明のカートン用ジッパーの効果を説明する図であり、図 5 は本発明のカートン用ジッパーを使用したジッパー付きカートンの一実施例を示す斜視図であり、図 6 は本発明のカートン用ジッパーを使用したジッパー付きカートンの別の実施例を示す斜視図であり、図 7 は本発明のカートン用ジッパーを使用したジッパー付きカートンのさらに別の実施例を示す斜視図であり、図 8 は従来のカートン用ジッパーの例を示す平面図である。

50

【 0 0 1 4 】

図 1 に示すように、本発明のカートン用ジッパー A は、開封部分に切れ目線 P が二列配列されて、その間が帯状のジッパーとなっている。両端いずれの方向からも開封を開始することができる形状である。すなわち、このカートン用ジッパー A の両端部を摘み部 T とし、いずれの側の摘み部 T を摘んでカートン用ジッパー A を引き裂いても、カートンを開封することができる。また、両端部の摘み部 T を摘みやすいように、切れ目線 P の端部に V 字形状などの切り欠け v を設けることもできる。

【 0 0 1 5 】

それぞれの切れ目線 P、P は、図 2 - a に示すように、主切れ目線 Q と補助切れ目線 R からなっている。そして、主切れ目線 Q は、それぞれの引き裂かれる線である二列のジッパーライン X、X 上に不連続に設けられている直線部 Q 1 と、この直線部 Q 1 の両端から鈍角にそれぞれ補助切れ目線 R に向かって斜めに伸びる斜線部 Q 2、Q 2 とからなっている。直線部 Q 1 と斜線部 Q 2、Q 2 との角度 α は、90 ~ 150 度の範囲が好ましい。角度 α が 90 度未満の場合、切れ目線 P をスムーズに引き裂くことができなくなり、一方、150 度を超える場合、開封前の切れ目線 P の強度が弱くなる。また、この斜線部 Q 2 と直線部 Q 1 との角は、図 2 - b に示すように、丸みを持った形状とすることが好ましい。さらに、図 2 - c に示すように、斜線部 Q 2 を円弧状としてもよい。

【 0 0 1 6 】

一方、補助切れ目線 R は、二列のジッパーライン X、X の内側にそれぞれ所定の幅に位置する平行な線 Y、Y 上に不連続に設けられ、その位置は、図 3 - a に示すように、隣接する主切れ目線 Q の斜線部 Q 2 の先端間 S を外方向に幅 c で平行に移動した位置とし、その補助切れ目線 R の長さ b は、隣接する主切れ目線 Q の斜線部 Q 2 の先端間距離 a と同等、または、それ以上の長さ、すなわち、 $b \geq a$ の関係が成立するものとする。また、斜線部 Q の先端から補助切れ目線 R との距離、つまり、先端間 S を外方向に平行に移動した幅 c は、0.5 ~ 3.0 mm の範囲とすることが好ましい。0.5 mm 未満の場合には、開封前の段階で切れ目線 P が切れてしまう危険があり、3.0 mm を超えた場合には、切れ目線 P が引き裂きにくなる。

【 0 0 1 7 】

また、補助切れ目線 R の形状は、図 3 - a に示すように、直線形状が基本形であるが、図 3 - b に示すように、両端を主切れ目線 Q 側に折り曲げた形状、あるいは、図 3 - c に示すように、主切れ目線 Q 側に凹んだ円弧形状とすることもできる。このような形状にすることによって、引き裂きの伝播が、確実に引き継がれて、切れ目線 P を引き裂くことができる。いずれの形状にしる、補助切れ目線 R に、主切れ目線 Q の斜線部 Q 2 の延長線が突き当たるという位置関係になるように、主切れ目線 Q と補助切れ目線 R を設定する。

【 0 0 1 8 】

さらに、切れ目線 P の直線部 Q 1 には、図 2 - d に示すように、ツナギ W を設けることが好ましい。このツナギ W は、直線部 Q 1 のほぼ中央部に設けることが好ましく、その幅は、0.1 ~ 1.0 mm の範囲で適宜設定することができる。このツナギ W を設けることによって、カートン用ジッパー A を設けることによるカートンの強度の低下を防ぐことができる。

【 0 0 1 9 】

本発明のカートン用ジッパーは平行な二列の切れ目線で形成した帯状のジッパーに限るものではなく、切れ目線が一行で形成された形状においても有効に使用することができる。この切れ目線は、ミシン目状の切れ目線、L 字形状の切れ目線などと比較して引き裂きやすく、かつ、残された引き裂き部分がギザギザな状態とならずに滑らかで綺麗な状態となる。

【 0 0 2 0 】

つぎに、本発明のカートン用ジッパー A の特徴を従来のカートン用ジッパーの代表例と比較して説明する。

【 0 0 2 1 】

図４ - a は、従来のカートン用ジッパーの代表例を説明する図である。図４ - a に示すような従来の直線部 L 1 と斜線部 L 2 とからなる L 字形の切れ目線 L が二列に配列されたカートン用ジッパー Z を M 方向から開封する場合、隣接する L 字形の切れ目線 L の間の間隙部 1 を引き裂こうとすると、切れ目線 L の直線部 L 1 の終点である後端からの引き裂き方向が、直線部 L 1 の延長方向か、斜線部 L 2 側に寄っていけばよいが、図４ - a の矢印 1 で示すように、斜線部 L 2 の反対側に偏ってしまうと、板紙の引き裂きに伴って起きる板紙の層間剥離を受け止める切れ目線 L の部分が無いため、間隙部 1 の切断は不能になり、切れ目線 L 同志が繋がらず、ジッパーライン X どおりの完全な開封ができなくなる。また、カートン用ジッパー Z を開封した後、残された引き裂き部分に凸状のギザギザが残り、外観上、綺麗ではない。一方、このジッパーを逆方向の N 方向から開封した場合、斜線部 L 2 の方向（図４ - a の矢印 2）に引き裂かれ、ジッパーの帯が切断され、開封が困難となる。

10

【００２２】

これに対して本発明によるカートン用ジッパー A の場合は、図４ - b に示すように、主切れ目線 Q の直線部 Q 1 の両端から内側の補助切れ目線 R 側の方向に斜線部 Q 2、Q 2 を設けることによって、M 方向あるいは N 方向のいずれの側からカートン用ジッパー A を引き裂いても引き裂きの方向をどちらかの斜線部 Q 2 の側に導くことができ、斜線部 Q 2 により導かれる引き裂きの方向において、それを受け止める補助切れ目線 R が待ち構えているので、引き裂きは次の主切れ目線 Q に確実に伝播し、ジッパーの帯が切れることなく、最後の主切れ目線 Q までジッパーライン X、X に沿った開封が可能となる。また、カートン用ジッパー A を開封した後、残された引き裂き部分が、綺麗な状態となる。

20

【００２３】

さらに、主切れ目線 Q の直線部 Q 1 のほぼ中央にツナギ W を設けることによって、サク貼工程で、切れ目線 P がささくれ立つことを防ぐことができ、また、カートン用ジッパー A を設けたことによるカートン強度の低下を防ぐことができ、さらに、カートン用ジッパー A を引き裂く時に、段階的に力が加わり、全体として、カートン用ジッパー A の引き裂きをスムーズに行うことができる。

【実施例】

【００２４】

< 実施例 1 >

つぎに、本発明のカートン用ジッパーについて、さらに、実施例をあげて詳しく説明する。図５は、本発明のカートン用ジッパーの一実施例を示す斜視図であり、このカートン用ジッパー A 1 は、ジッパー付きカートン C 1 の天パネル 1 5 に形成された例である。図５に示すように、ジッパー付きカートン C 1 は、天パネル 1 5、四つの側パネル 1 1、1 2、1 3、1 4、底パネル 1 6 により構成され、カートン用ジッパー A 1 を、切れ目線 P を二列に配列して帯状にして、ジッパー付きカートン C 1 の天パネル 1 5 を横断して設けた。そして、摘み部 T をカートン用ジッパー A 1 の両端部に設け、摘みやすいように、天パネル 1 5 の端縁から突出した形状とした。このジッパー付きカートン C 1 を開封するには、いずれかの側の摘み部 T を摘んでカートン用ジッパー A 1 を開封することにより、ジッパー付きカートン C 1 の天部を容易に開口することができた。そして、開封した後、残された引き裂いた部分が綺麗であった。

30

40

【００２５】

< 実施例 2 >

図６は、本発明のカートン用ジッパーの別の実施例を示す斜視図であり、このカートン用ジッパー A 2 は、ジッパー付きカートン C 2 の天パネル 1 5 と前パネル 1 2 に渡って形成された例である。図６に示すように、ジッパー付きカートン C 2 は、天パネル 1 5、側パネル 1 1、前パネル 1 2、側パネル 1 3、後パネル 1 4、底パネル 1 6 により構成され、カートン用ジッパー A 2 は、切れ目線 P を天パネル 1 5 の側辺近傍に二列に配列して幅広い帯状にして、さらに、前パネル 1 2 に延長して接続して摘み部 T を設けた形状とした。このカートン用ジッパー A 2 を開封するには、まず、前パネル 1 2 の摘み部 T を摘んで

50

、前パネル 1 2 の切れ目線 P、P を引き裂き、そして、連続して天パネル 1 5 の幅広い帯状のカートン用ジッパー A 2 を開封して、ジッパー付きカートン C 2 の天部を開口することができた。そして、開封した後、残された引き裂いた部分が綺麗であった。

【 0 0 2 6 】

< 実施例 3 >

図 7 は、本発明のカートン用ジッパーのさらに別の実施例を示す斜視図であり、このカートン用ジッパー A 3 は、ジッパー付きカートン C 3 の前パネル 1 2 と側パネル 1 1、1 3 に渡って形成された例である。図 7 に示すように、ジッパー付きカートン C 3 は、天パネル 1 5、側パネル 1 1、前パネル 1 2、側パネル 1 3、後パネル 1 4、底パネル 1 6 により構成され、切れ目線 P を二列に配列して帯状にしたカートン用ジッパー A 3 を、ジッパー付きカートン C 3 の前パネル 1 2 を横断して設け、さらに、両側パネル 1 1、1 3 に斜め方向に一系列の切れ目線 P をそれぞれ設けた。このジッパー付きカートン C 3 を開封するには、まず、いずれかの側の摘み部 T を摘んで、前パネル 1 2 のカートン用ジッパー A 3 を開封し、そして、カートン用ジッパー A 3 より上部の前パネル 1 2 と天パネル 1 5 の部分を持ち上げて、側パネル 1 1、1 3 の切れ目線 P、P を引き裂くことにより、ジッパー付きカートン C 3 の上部が分断されて蓋部となり開口することができた。そして、開封した後、下部の引き裂いた部分が綺麗であった。

10

【 産業上の利用可能性 】

【 0 0 2 7 】

本発明のカートン用ジッパーは、カートンを構成する構造体の各構成部、例えば、天部、側部、あるいは底部などのいずれの部位にも形成することができる。また、側部においては、その一部の側パネル（前パネル）若しくは全部の側パネルに渡って連続して設けることができる。また、カートン以外にも、プラスチックケース、文具、封筒類等にも利用することができるものである。

20

【 符号の説明 】

【 0 0 2 8 】

- A 本発明のカートン用ジッパー
- A 1 本発明のカートン用ジッパー（実施例 1）
- A 2 本発明のカートン用ジッパー（実施例 2）
- A 3 本発明のカートン用ジッパー（実施例 3）
- Z 従来のカートン用ジッパー（従来例）
- C ジッパー付きカートン
- C 1 ジッパー付きカートン（実施例 1）
- C 2 ジッパー付きカートン（実施例 2）
- C 3 ジッパー付きカートン（実施例 3）
- P 切れ目線（本発明のカートン用ジッパーの）
- L 切れ目線（従来のカートン用ジッパーの）
- L 1 直線部（切れ目線 L の）
- L 2 斜線部（切れ目線 L の）
- M 開封方向
- N 開封方向
- Q 主切れ目線
- Q 1 直線部
- Q 2 斜線部
- R 補助切れ目線
- X ジッパーライン
- Y ジッパーラインに平行な線
- W ツナギ
- T 摘み部
- S 斜線部先端間

30

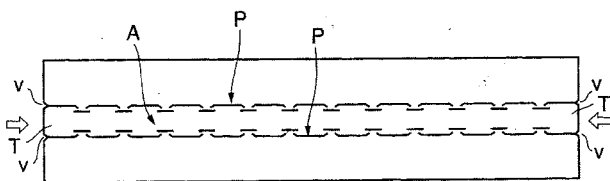
40

50

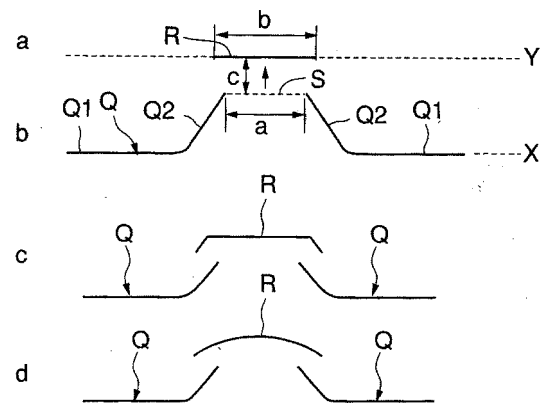
- α 主切れ目線と補助切れ目線との角度
- a 斜線部先端の距離
- b 補助切れ目線の長さ
- c 主切れ目線の先端と補助切れ目線との間隙幅
- l 間隙部（切れ目線 L の）
- v 切り欠け
- 1 1 側パネル
- 1 2 側パネル（前パネル）
- 1 3 側パネル
- 1 4 側パネル（後パネル）
- 1 5 天パネル
- 1 6 底パネル

10

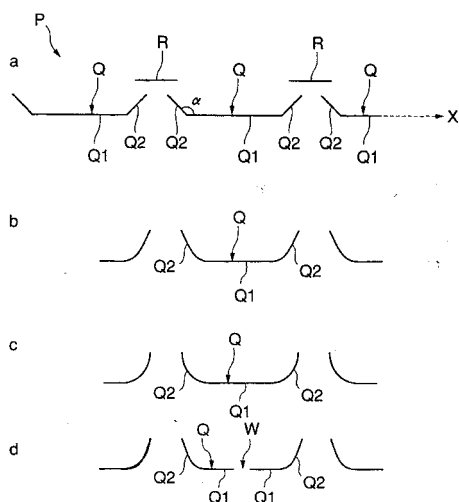
【図 1】



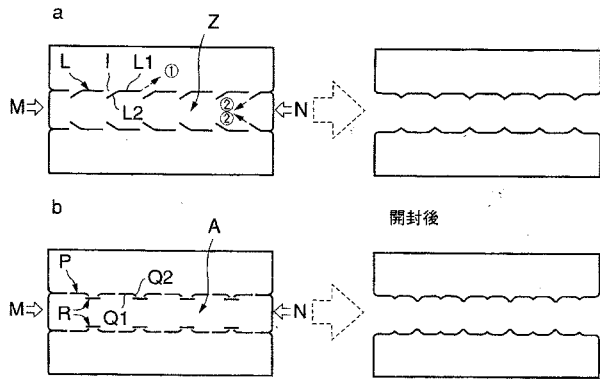
【図 3】



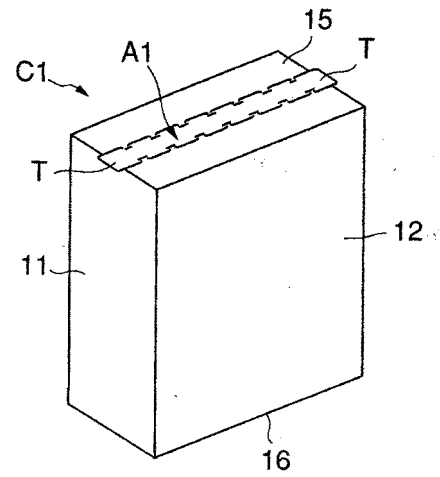
【図 2】



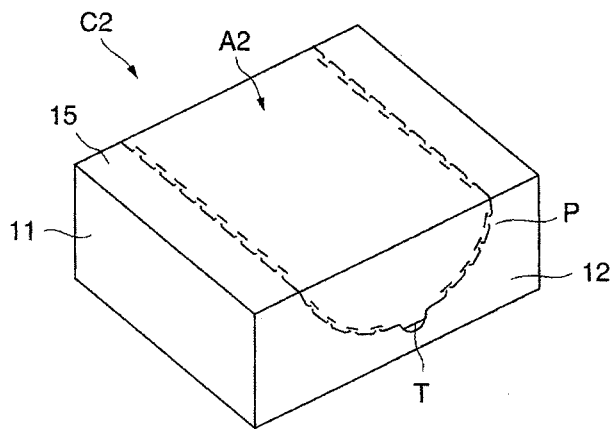
【図 4】



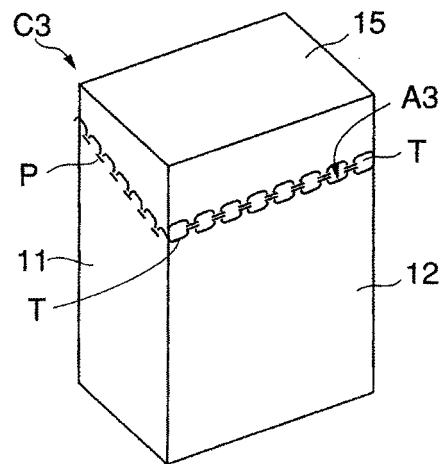
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【 図 8 】

